

# 文教委員会 視察報告と意見交換会 開催報告書

平成 29 年 5 月

川名ゆうじ（委員長）

浜田けいこ（副委員長）

高野恒一郎、竹内まさおり

内山さとこ、山本ひとみ

## ■開催趣旨

現在、武蔵野市教育委員会は、施設一体型の小中一貫校について検討を進めている。この重大な問題について、文教委員会として調査・研究のために施設一体型の小中一貫校の先進事例の視察を行った。この視察結果を市民に公開・共有化するとともに、市民意見を聴取・反映する必要があることから報告と意見交換会を行った。

## ■開催概要

- 開催日時：平成 29 年 4 月 23 日（日曜日） 午後 2 時から 4 時
- 開催場所：武蔵野プレイス 4 階フォーラム
- 参加人数：約 70 名（資料残数から推計）
- 内容：

浜田副委員長による司会進行のもと、視察した学校ごとに説明を行った。担当者は下記。

- |             |      |
|-------------|------|
| ・京都市立凌風学園   | （山本） |
| ・大阪市立むくのき学園 | （高野） |
| ・港区立白金の丘学園  | （竹内） |
| ・品川区立豊葉の杜学園 | （内山） |

視察報告への質疑応答後、3 月 7 日の文教委員会で行政報告があった「武蔵野市小中一貫教育調査研究ワーキングチームにおける論点整理」について、委員会での質疑概要を川名委員長が報告した後に、意見交換を行った。

質問や意見は予想した以上に多く出され、予定時間を超えるほど活発な状況だった。

## ■感想と今後の課題

- 結論が出る前の検討段階における市民との意見交換は、アンケートにあるように、概ね好評と考えられた。
- 今回は、客観的な事実を中心に、「個人の意見」と発言したうえで、委員個人の意見の発言も行った。節度を持つことが大前提だが、今後、武蔵野市議会や委員会で意見交換会を行う場合には参考にしていきたい。

- 小中一貫教育校について、委員会としての賛否を決めていないことを会の冒頭に説明したが、途中からの参加者には伝わっていなかった。事前のチラシや当日資料などで伝える工夫が必要と考えられる。
- 行政と議会の役割、立場が違うことを市民に理解していただけることも、議会全体として考える必要がある。
- タイムスケジュールの詳細を考える必要がある。

※ アンケートの自由記述欄にある意見は、別紙「資料6」に添付したので、ご参照いただきたい。

※ 当日の様子を内部資料用として動画で記録した。事務局で保存しているので、必要な場合は事務局で確認していただきたい。

#### ■ 資料

|                                                         |      |
|---------------------------------------------------------|------|
| 資料 1 : 視察報告と意見交換会 チラシ                                   | 3 p  |
| (同じ内容を A 3 に拡大したポスターも作成した。)                             |      |
| A 4 チラシは、白黒印刷を行い市内公共施設へ庁内交換便で配布した)                      |      |
| 資料 2 : 当日の次第                                            | 4 p  |
| 資料 3 : 当日の視察報告資料                                        | 5 p  |
| 資料 4 : 「武蔵野市小中一貫教育調査研究<br>ワーキングチームにおける論点整理」<br>(行政報告資料) | 9 p  |
| 資料 5 : アンケート用紙                                          | 11p  |
| 資料 6 : アンケートの回答と自由記述欄での意見                               | 12 p |

以上



# ●主催：武蔵野市議会 文教委員会

## 視察報告と意見交換会

●テーマ：小中一貫教育について

●日時：4月23日（日）14時～16時

●場所：武蔵野フレイス 4F フォーラム

武蔵野市境南町 2-3-18 武蔵境駅南口徒歩1分

キッズスペースあり 参加費無料 事前申込み不要



京都市立  
凌風学園



大阪市立  
むくのき学園



港区立  
白金の丘学園



品川区立  
豊葉の杜学園

視察先

皆さんも一緒に  
考えませんか？



武蔵野市教育委員会は、平成27年に小中連携を更に進めた「小中一貫教育」の検討を始め、昨年2月、「武蔵野市小中連携教育推進委員会報告書」をまとめました。

これを受け、市議会文教委員会は、これまで育んできた学校と地域の関係はどうなるのか、学力向上や中一ギャップなどの問題の解決には他に組み入れる方法もあるのではなどの議論を続け、昨年10月、今年1月に各地の施設一体型の小中一貫教育校の先進事例を視察、研究してきました。

今年3月には文教委員会に、小中一貫教育調査研究ワーキングチームにおける論点整理が報告され、今後、学校関係者、市民などの意見や平成29年度に設置する小中一貫教育検討委員会での検討などを元に武蔵野市の未来の学校教育の方向性を定めていきたいと報告がありました。

そこで、今回は、文教委員会の視察報告とともに、子どもたちにとって望ましい教育について市民の皆様と一緒に考え、意見交換を行いたいと思います。どうぞお問い合わせでご参加ください。

●お問い合わせ

武蔵野市議会事務局議事係 Tel 0422-60-1883

文教委員長 川名ゆうじ Tel 090-3238-4997 Email kawana@ba2.so-net.ne.jp

## 武蔵野市議会文教委員会 視察報告・意見交換会

### ～小中一貫教育について～

2017 年 4 月 23 日（日）14：00～16：00

武蔵野プレイス フォーラム

司会（浜田）

◆開会

◆小中一貫教育校の視察報告

- ・京都市立凌風学園（山本）
- ・大阪市立むくのき学園（高野）
- ・港区立白金の丘学園（竹内）
- ・品川区立豊葉の杜学園（内山）

◆質疑応答

- ◆「武蔵野市小中一貫教育調査研究ワーキングチームにおける論点整理」  
（3 月 7 日文教委員会にて行政報告）について（川名）

◆意見交換

◆閉会

本日は、ご参加いただきまして、ありがとうございます。

できるだけ多くの方にご発言いただけるよう、ご意見・ご質問の際はなるべく簡潔にまとめてお願いします。

お帰りの際は、アンケートにご協力をお願いします。

# 【資料3-1】

文教委員会（平成 28 年 10 月 12 日～14 日）

日 時：10 月 13 日 午後 2 時 30 分～4 時 30 分

視察先：京都府京都市立凌風学園

テーマ：小中一貫教育について

目 的：武蔵野市教育委員会が検討している小中一貫教育校について、先進事例を調査し、今後の参考にする。

内 容：

凌風学園は、武蔵野市で行われたシンポジウムで同学園校長がパネラーとして登壇していることや、小中の 9 年間を 4、3、2 のステージとしていることなど、武蔵野市教育委員会が検討を進めている施設一体型の小中一貫教育校のモデル校と考えられる。



同学園は児童数が減ったことから、平成 16 年 3 月に内閣府の教育特区として「京都市小中一貫教育」に認定されことを受け、同年 4 月から小中連携の検討を本格的に始め、平成 24 年 4 月に開校している。

説明を伺うと、同学園の小中一貫校のねらいは、児童生徒数の減少への対応以外にも地域全体の学力向上と子どもの生活規律を整えることにあったと分かった。

教育効果については、小中連携を行ったうえで施設一体型の小中一貫校としたこともあり、施設一体型でない小中一貫教育の成果は上がらないと学園長は話されていた。施設一体型小中一貫校の場合、運動量の違いや授業時間数から小学生と中学生が一つの校庭で対応できるかという課題があるが、同学園の場合は、近接していた小学校と中学校を統合したため、両方の校庭を継続して使用していることで対応していた。

施設一体型の小中一貫校は、施設の統合により施設の維持管理費削減になることが考えられるが、旧学校を地域住民が使用する施設として活用しているため大きく費用は下がらないと考えられるものの、小中合わせて計 4 校の校長・副校長の管理職 8 名が、校長（学園長）・副校長と小中それぞれの教頭 1 名ずつ 2 名で合計 4 名となるため、管理職が 8 名から 4 名へと削減されることでの費用削減効果となることは分かった。ただし、学園長は小学校と中学校の校長会や地域行事に出席することで数倍の忙しさになると話されていた。また、管理職以外の教員の忙しさは変わらないものの、同じ職員室にすることで教師や職員が常に話し合える状況にあり、大きなメリットだと話されていた。

小中一貫校のメリットに「中一ギャップの解消」が挙げられている。凌風学園の場合それはなくなったが、その代わり 4 年から 5 年へ上がるときに「小 5 ギャップ」が見られるようになったものの、それほど問題ではないと話されていた。

成果（参考になった点）、課題等

凌風学園の場合は、小中一貫校として 4 年が経過した段階ではあるが、学力や生活習慣が改善されていることが分かり、効果があると考えられる。しかし、3 つの旧小学校がすべて徒歩で 15 分程度の距離であり統合しても通学時間が増えないこと、小中が近接していたので校庭が 2 つあることなどの理由により、児童数の減少で一中学校の敷地で統合した小中学生の児童生徒数を受け入れることが可能となったと考えられ、武蔵野市とは前提が異なるため、同様のことを武蔵野市にあてはめることはできないが、教育効果については参考としたい。





# 【資料3-2】

文教委員会（平成 28 年 10 月 12 日～14 日）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時：10 月 14 日 午前 9 時 30 分～11 時 30 分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 視察先：大阪府大阪市立むくのき学園                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| テーマ：小中一貫教育について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 目 的：武蔵野市教育委員会が検討している小中一貫教育校について、先進事例を調査し、今後の参考にする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>内 容：</p> <p>むくのき学園は、旧啓発小学校と旧中島中学校を統合し、平成 26 年からスタートしている。小中一貫校としたのは、少子化により児童生徒が少なくなり、1 学年 1 クラスとなっていたことが理由。小中学校を統合しても学級数が不足しないため校舎の増築や新築は必要なかったこと、小中学校とも学区が同じだったこと、小学校がなくなることへの地元感情を考慮したことから、他の小学校との統合・移転は想定せずに実施されたとの説明だった。</p> <p>一方で、統合しただけでは児童生徒数は増えないため、むくのき学園の学区内の児童生徒は必ず入学できるとしたうえで、全市からの入学も認め、英語教育、I C T 教育に力を入れていることを特徴として希望者を募っている。他学区から通学する場合は、公共交通機関を使うことが前提で費用は保護者負担としており、現在は 1 学年 2 クラスとなっていた。</p> <p>むくのき学園は大阪市内で施設一体型の小中一貫校の 2 校目となるが、最初の 1 校も同じように同じ学区に小学校 1、中学校 1 の統合で、既存の校舎を活用しての一貫校だった。同様の 1 対 1 の組み合わせの小中学校は大阪市内に 9 校があるが、施設一体型にすると既存の校舎で対応できないことから行われていない。</p> <p>また、大阪市内には 2 つの中学に分かれる小学校や 1 中学校に 5 小学校が通う学区もあるが、このような学区で統合し一貫校にすると学区の再編などを含めて複雑になるので今後の研究テーマだとされていた。</p> <div data-bbox="145 1267 620 1624" data-label="Image"> </div> <p>むくのき学園の特徴には、校舎を新築しないことがある。費用を抑えることを大きな理由としていたが、耐震化は行ったうえで築 60 年の校舎を使うことは、築 60 年で建て替えを想定している武蔵野市とは異なる判断だった。</p> <p>施設一体型にした場合、校庭の課題があるが、近隣にある旧中島中学校の校庭を使うことで解決していた。旧小学校の校舎は解体し、同じ場所で特別支援学校に転用・新築していた。</p> |
| <p>成果（参考になった点）、課題等</p> <p>むくのき学園は、費用をかけず、学区の変更もなく、児童生徒を受け入れられる校舎があり、2 カ所の校庭（プラス中庭）があるなど物理的に問題がないことで可能となっていた。単一学級ではなかったことに加えて、学力に課題があったが小中一貫教育で学力は向上し、感覚ではあるが小学生がいることで中学生が優しくなり、温かな校風になったと学園長は話されていたことから、成果は出ているように考えられた。武蔵野市では、1 小学校と 1 中学校で学区が同じところはない。学区の変更も必要になる地域があり、同様にはできないと考えられるが、教育的効果については参考としたい。また、京都市と同様に学園長の仕事は倍になったが給料は同じで、このことは考えてほしいと話されていたことは課題と考えられる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

### 【資料3-3】

文教委員会（平成 29 年 1 月 18 日、31 日）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 日 時：1 月 18 日 10 時～12 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |
| 視察先：東京都港区立 白金の丘学園                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
| テーマ：施設一体型小中一貫教育校について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
| <p>目 的：</p> <p>武蔵野市教育委員会が検討を行っている小中一貫教育（施設一体型）の先進事例について、特に校舎の建設や建て替えをどのように実施したかを中心として調査する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |
| <p>内 容：</p> <p>港区立白金の丘学園は、2 小学校と 1 中学校を統合して平成 27 年 4 月に開校した 4・3・2 制の一貫校である。</p> <p>校舎は 6 階建てと 3 階建てに分かれており、北側の 3 階建て校舎部分に体育館とホール、温水プールが設けられ、屋上部分が人工芝の校庭になっている。6 階建ての校舎は南側にあり授業用の教室が主で、1 階が 1 年生、2 階が 2 年生というように、成長に合わせて上の階へ移る配置となっていた。他にも小・中双方に給食を提供する給食調理室、ランチルーム、柔剣道場、学童クラブなども設けられていた。</p> <p>学校に必要と思える施設をすべてと言っていいほど盛り込んだ校舎と言え、敷地面積に目いっぱい校舎を建設しているのが特徴だ。</p> <p>小中一貫教育校導入理由は、元の 2 小学校、1 中学校がそれぞれ 100 名ぐらいの児童生徒数が続き、このままでは廃校になると地域住民が考え、地域に学校を残すために 3 校を統合してと説明を受けた。教育委員会は小中一貫教育の導入を先導していないとの説明があり、教育的効果のためではなく、学校を残すための策ともいえる。今後、港区でさらに広げるのかについては、「小中連携は進めるが施設一体型小中一貫校を増やすかどうかは決まっていない。あくまでも地域事情で判断する」という。</p> |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
| <p>成果（参考になった点）、課題等</p> <p>白金の丘学園の敷地面積の約 12,500 m<sup>2</sup>は、武蔵野市の小中学校と比較すると関前南小の 12,410 m<sup>2</sup>とほぼ同じである。敷地面積だけで考えれば、同様の小中一貫校舎を武蔵野市内で建設することは可能だろうが、敷地面積をほぼ使う 6 階建てとなると容積率などの課題、周辺住民に理解を得られるかの課題がある。白金の丘学園の場合は、斜面にあるので高さによる圧迫感が少ないこと。6 階建ての校舎の南側隣接地は住宅地ではなく高校であり、北側への校舎の日影は校庭になるので他に影響が少ないなど、土地の好条件、周辺に高層マンションが多く、高層建築物への違和感が少ない地域で可能となったと考えられ、武蔵野市内とは条件が異なっている。</p> <p>また港区は自由学区制を導入しており、児童生徒数の想定がし難い状況にあり、新たに校舎を建設する場合、入学希望が増えることへの対応が必要とのアドバイスを頂いた。その反面、中学校の生徒数は自由学区制であることから、他地域から通う生徒が増えたことでクラス数が成り立つ側面もある。武蔵野市は自由学区を導入していないため、児童生徒数の見込みはし易いが、一方で現状の学区域のままで適正規模の学校となるのかという課題もあることが分った。</p>              |  |

【資料3-4】

文教委員会（平成 29 年 1 月 18 日、31 日）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 日 時：1 月 31 日 14 時～16 時 30 分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |
| 視察先：東京都品川区立 豊葉の杜学園                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |
| テーマ：施設一体型小中一貫校について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |
| 目 的：武蔵野市教育委員会が検討を行っている小中一貫教育（施設一体型）についての先進事例、特に校舎の建設や建て替えをどのように実施したかを中心として調査する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
| <p>内 容：品川区立施設一体型小中一貫校「豊葉の杜学園」は、平成 23 年に旧荏原第三中学校と旧荏原第四中学校を統合し豊葉の杜中学校として開校した後、同 25 年に杜松小学校と大間窪小学校を統合し小中一貫校として開校、同 28 年 4 月からは義務教育学校となり、4・3・2 制をとっている。校舎は隣接する旧小中学校の敷地を利用し、小中だけでなく、幼稚園、保育園、それに地域センターとの複合施設で、住宅密集地に建設されている。</p> <p>校舎は、道路をはさみ 4 階建ての北棟と 3 階建ての南棟に別れているが、連絡通路（廊下）で接続し校舎外に出ることなく行き来ができるようになっている。校庭は南棟の東側にあり、北棟の北側に地域センターがあり、学校との間には地域開放も行う温水プールや、バスケットコートが三箇所も取れるほどの広さがある体育館が設けられていた。地域に開放する際は、学校側から出入りするのではなく、地域センター側の出入り口を使用し、学校側の出入口を閉じた上で行う設計となっている。</p> <p>小中一貫校での教師の多忙については、1.5～2 倍はあるように感じるが、「ひとつの学校として知恵を出し合えば解消できるもので 2，3 年勤務すれば多忙感は解消されている」と説明を受けた。校舎の設計では、校舎が横に長く移動に時間がかかることから、教室と職員室の途中に教師の待機場所、「教師コーナー」をつくり対応をしていた。</p>                                                                                                                                  |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
| <p>成果（参考になった点）、課題等：北棟と南棟の敷地面積を合計すると約 17,000 m<sup>2</sup>となり、武蔵野市立第四中学校の 20,910 m<sup>2</sup>より狭いことを考えると、教育的な効果は別として、武蔵野市内での可能性はあると考えられる面積だった。しかし、建設時は仮校舎を校庭に建設した後、小中の既存校舎を解体し、新校舎の完成後に仮校舎を解体して校庭を作り直す行程としていた。工期は 3 年で、学年によっては在学する 3 年間を通して工事中の校舎で過ごし校庭も使えない生徒がでてしまうことになる。教育環境としては課題と考えられる。</p> <p>品川区は小中とも自由学区制であることから、工事期間中の転校希望者がでて児童生徒が少なくなり対応できたともいえる。一方で新校舎となった後は希望者が増えている。教室の配置を見ると 1～6 年生までは一学年は 3 クラスだが 7～9 年生は 5 クラスとなっている。視察時には、本来は普通教室で想定していなかった部屋を教室にするなど、児童生徒数増への対応が課題でもあることも分った。自由学区制を武蔵野市は採用していないが、児童生徒数をどのように想定するかも課題と考えられる。</p> <p>品川区の施設一体型の小中一貫校は豊葉の杜学園で 6 校目となる。区内を大きく分けて 6 つの地域に分け、その 6 つの地域に一貫校を 1 校開校することを目標にしてきたため、今後については決まっていないという。武蔵野市で、もし実施するとした場合、何校で実施するのか想定することも課題と考えられる。また、幼稚園、保育園、地域センターとの複合施設であったが、武蔵野市として学校とその他公共施設の複合化を想定するのも課題だと分った。</p> |  |



## 武蔵野市小中一貫教育調査研究ワーキングチームにおける論点整理

平成28年5月に教育部内に設置した小中一貫教育調査研究ワーキングチームは、これからの武蔵野市の学校教育の目指すべき方向性を検討し、その上で、武蔵野市において小中一貫教育を行うとした場合の、その望ましいあり方について検討を進めてきた。

このほど、現在の検討状況のあらましを小中一貫教育の議論のたたき台としてまとめた。

今後、学校関係者、市民等の意見や、平成29年度に設置する小中一貫教育検討委員会における検討などをもとに、本市の未来の学校教育の方向性を定めていきたい。

### これからの武蔵野市の学校教育に求められる目的

子どもを取り巻く環境が大きく変化する中、武蔵野市の学校教育がこれまで培ってきた子どもたちのよい点を一層伸ばすために以下の目的を設定する。

- 保護者や地域の方々のご協力をいただきながら、9年間の義務教育課程を通して、これまで取り組んできた知徳体のバランスのとれた教育を一層推進する。
- 学校が子どもたちにとっての居場所となり、子どもたちが安心して生活できるよう、教育目標や教育方針を学校教職員、保護者と地域の方々が共有し、一体となって子どもたちの望ましい成長を支援する場とする。

### 武蔵野市の子どもたち

#### 現 在

- 学ぶ姿勢が十分身に付いており学習内容は概ね理解している。
- 「地域や社会で起こっている出来事」について高い関心をもっている子どもが多い。
- 「学校に行くのは楽しい」と感じている子どもが多い。
- 持久力や走力は高い状況にある。
- 家庭や地域の教育力は非常に高い。
- セカンドスクールや土曜学校の実施など、体験活動の充実が図られている。
- 市独自の講師配置できめ細かい教育が行われている。

#### 未 来

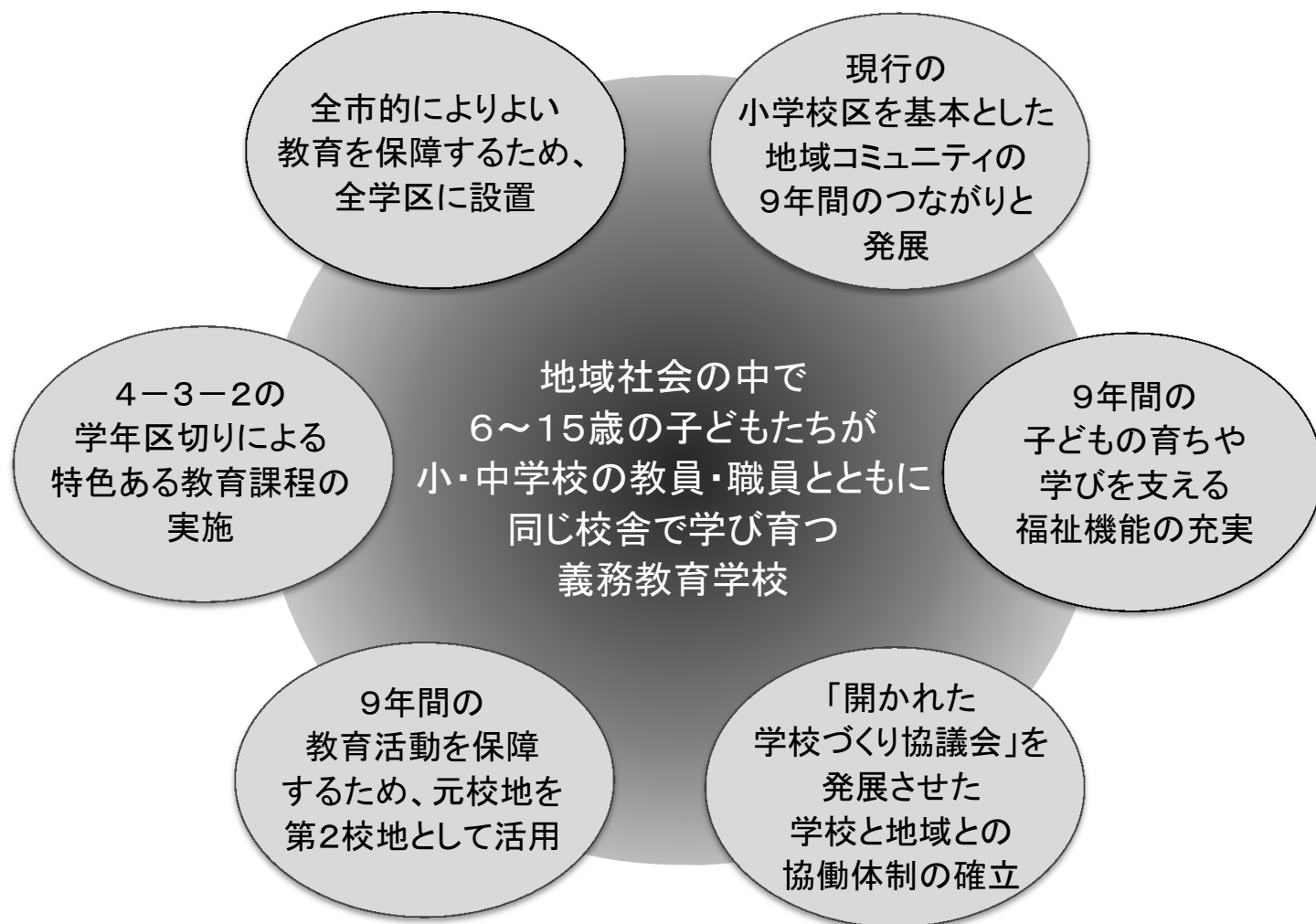
- 創造力や学ぶ意欲について一層の向上を図る。
- 住んでいる地域の行事に参加したり、地域の課題解決に取り組むなど、社会参画力を一層高める。
- 夢や希望、未来への責任をもつ子どもたちをより多く育てる。
- 運動の機会を増やし、運動が好き、得意と感じる子どもたちをより多く育てる。
- 様々な家庭の状況におかれた子どもたちを、学校において等しく、一層支援する。

### これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標

- 義務教育9年間を通して、意図的・計画的に発達段階に応じた教育を進め、社会の中で自分の役割を果たしながら、人間力を高め、自分らしい生き方を実現する教育を目指す。
  - ・「知」については、基礎・基本の定着や問題解決能力の育成等に重点を置いた連続性・系統性をもった指導を通して、子どもたちに学ぶ意欲を育み、将来に夢や希望をもって力強く歩んでいける力を一層育む。
  - ・「徳」については、地域の方々の支援を受けながら、社会性や市民性の向上に重点をおいた指導を通して、一人一人の多様性を認め、他者への思いやりの心をもつ子どもたちを育てる。また、社会の一員としての自覚をもち、自己有用感を高めながら自分の意見や意思をもって行動できる力を育てる。
  - ・「体」については、体力と健康の基礎づくりや運動能力の向上に重点を置いた指導を通して、生涯にわたって健康の保持増進や、運動習慣を確立するための基礎を培う。運動部活動の地域スポーツ化を進める。
- 配慮を要する子どもへの特別な支援をはじめ、子どもの貧困問題の解決や地域コミュニティの活性化という視点に立って、学校と保護者や地域の方々が力を合わせて子どもたちの育ちや学びを支援する地域基盤をより一層確かなものとする。そのため、「子どもの最善の利益」に寄り添うことができる、総合的な成長支援のプラットフォームとしての学校づくりを目指す。

## 武蔵野市として9年間の小中一貫教育を実施する場合の考え方

これからの武蔵野市の学校教育に求められる目的や目標の実現に向け、小中一貫教育を実施する場合は、現行の小学校区を基本とする施設一体型の義務教育学校として実施することが望ましいと考える。



### ＜施設一体型の義務教育学校で期待される効果的な取組＞

○市民から託された財源を、これまで以上に効果的に活用して、義務教育年齢のすべての子どもたちが、安心して自らの可能性をひらき、自信をもって社会に参加していくことができるよう学校教育を改革する必要が想定される中、以下の取組について、施設一体型の義務教育学校で実施することで高い効果が得られると考える。

- ・次期学習指導要領が示す、小学校における外国語教育やプログラミング教育など、これまでの小中学校の枠組みでは対応が難しい新たな教育課題の解決に向けた取組
- ・学び直しなど子どもたち一人一人の学習上のつまずきの解消や特別支援教育における9年間の一貫した自立支援に向けた取組
- ・自己有用感や思いやりの心を育成するために、個に応じた継続した生活指導や年齢差を生かした子どもたちの交流の実現に向けた取組
- ・9年間にわたり、学校、保護者、地域が一体となる、活力あるコミュニティの構築による子どもたちの成長支援に向けた取組

## アンケートのお願い

本日は、武蔵野市議会文教委員会主催「視察報告・市民意見交換会」にご参加いただき、ありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力をお願いいたします。

1. 参加された方について伺います。

## ＜お住まい＞

☐武蔵野市内(            町)      ☐武蔵野市外(            市・区)

## <年 代>

☐20歳未満    ☐20歳代    ☐30歳代    ☐40歳代

☐50歳代      ☐60歳代      ☐70歳代      ☐80歳代以上

2. 今回の視察報告・意見交換会は、何でお知りになりましたか。【複数回答可】

[□武蔵野市の市報](#)   
 [□武蔵野市ホームページ](#)   
 [□武蔵野市議会ホームページ](#)

☐チラシ ☐ポスター ☐知人・友人から聞いて

☐ SNS などインターネットからの情報

□その他（ ）

3. 参加された感想について伺います。

☐わかりやすかった ☐どちらかといえばわかりやすかった

☐どちらともいえない ☐どちらかといえばわかりにくかった ☐わかりにくかった

4. 小中一貫教育について、その他ご意見があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。

## アンケートのまとめ

■アンケート回答 合計 36名

### 1. 参加された方について伺います

#### ■居住地

|           |                            |
|-----------|----------------------------|
| 市内（町名不記載） | 5（50歳代2、70歳代2、80歳代1）       |
| 桜堤        | 4（30歳代1、40歳代2、60歳代1）       |
| 境         | 4（40歳代2、60歳代2）             |
| 境南        | 6（40歳代1、50歳代5）             |
| 中央地区      | 5（30歳代2、40歳代2、50歳代1）       |
| 吉祥寺       | 6（30歳代1、50歳代2、60歳代2、70歳代1） |
| 市外        | 6（20歳代2、40歳代1、50歳代2、60歳代1） |

#### ■年代

|          |          |          |           |
|----------|----------|----------|-----------|
| 20歳代 = 2 | 30歳代 = 4 | 40歳代 = 8 | 50歳代 = 12 |
| 60歳代 = 6 | 70歳代 = 3 | 80歳代 = 1 |           |

### 2. 何でお知りになりましたか 【複数回答可】

|               |    |
|---------------|----|
| 市報            | 8  |
| 武蔵野市の HP      | 1  |
| 武蔵野市議会 HP     | 5  |
| チラシ           | 7  |
| ポスター          | 5  |
| SNS などインターネット | 7  |
| 知人・友人から聞いて    | 14 |
| その他           |    |
| 市議の HP を見て    | 1  |
| 教育カフェの方から     | 1  |
| 市議から          | 2  |

### 3. 参加された感想

|                  |    |
|------------------|----|
| わかりやすかった         | 8  |
| どちらかといえばわかりやすかった | 14 |
| どちらともいえない        | 4  |
| どちらといえば、わかりにくかった | 1  |

### 4. 自由記述

#### ▼小中一貫教育について

##### （肯定的な意見）

- 武蔵野市においては今年度さらに小中連携を進める中から小中一貫を目指して欲しい。
- 物理的な要求（成長期の早まり、中学生の減少など）があるなら、考える価値あり。

##### （中間的な意見）

- 参加者の質問から出た諸々の問題（教育効果）は、その後の努力次第。
- 一貫校の設置「4・3・2制」「施設一体型」の持論ありきで論点整理になっていない（6・3制、4・4制、9・0制）（施設分離型、施設併設型もある）。
- 小中の連携強化、小中一貫した教育のあり方を検討することと「一貫学校」をつくることはイコールではない。
- 「教育」の目的は、「社会的自立」と考えています。ですから、学力がどうでも、不登校がどうでも、あまり関係ないです。検証データがないとか、とりづらいといった話もありましたが、「どうやって検証するか」といった議論はあったのか。
- 「教育的効果」の是非で考えた場合、結果として「社会的自立」を果たし、亡くなるまで頑張って生活してゆく大人になったかどうか、なれそうかどうかという基準で判断したいと思います。
- 「見たことがない学校」＝市民参加でつくる学校。「大草原の小さな家」か？
- 小中学生の子育て世代に議論を広める必要があると感じました。
- 武蔵野市教委の見解を、小中一貫化のメリット、小中一貫未実施のメリット、それぞれを知りたい。
- 小中一貫教育と学校選択性（学区の廃止）はセットで考えないといけないのではないかと思います。
- 市内全てを小中一貫教育にしないのならば、学区は廃止にして選べるようにしないといけないのでは？
- なぜ小中一貫にすべきなのか、そもそも議論すべきかも含めて、市民にはっきり提示して欲しい。
- 4・3・2制は各期がどのような目的で分けられているのか。一般的なわけ方なのか武蔵野市は独自のカリキュラム方法をとるのならば、ハード面（施設）の形を整えることよりは、内容（ソフト）重視にしてほしい。



### 【資料6-3】

- 視察報告を聞いて、設立の背景が当市の進めている背景とは違うことに気づきました。
- 「小中一貫やるなら一体型」というのもどうでしょうか？
- 小中がとなりあう施設で一貫した教育を行うほうが、教育的には意味があると思うが。しかし、子どもの現状をしっかりとらえたうえで、ビジョンとともに示して欲しい。
- 今日出た質問や意見をふまえて慎重に「小中一貫教育について」議論を進めてほしいです。そういう場づくりができるといいですね。

#### （否定的な意見）

- 慎重に考え、対応すべき。統合は安易に考えるべきでない。
- 人口は減るのに、何らかの形で学校制度を考えなくてはならない。でも、武蔵野市は児童数が増えているので、小中一貫しなくてもいいのでは。それより教員による丁寧な教育をすることの方が大切。
- 少数学級で勉強にもいいのでは。
- 武蔵野市は今の体制でよい。
- 児童数が減少したら、1クラスの生徒数を今のような35～40人をやめ少人数（20人以下）編成にするべきです。
- 教育長からメリットを説明すべき
- メリットがないのでは議論する価値がない。
- 文教委員の方々も「『小中一貫にするメリット』についてエビデンスが得られなかった」という認識をもたれている事、その事を視察報告の会で公言して下さった事、とても安心しました。
- 小学生保護者として、教育委員会には、こんなことに時間を割かずに各校が抱えている課題の解決（学力、イジメ、不登校 etc）や、インクルーシブ教育の定着、ハード面の解決（学校施設不足、老朽化、給食施設困難）に全力を注いで欲しいです。
- 小中一貫学校（義務教育学校）には必然性なし。将来、児童数減で学校統合や学区変更が必要あるなら、それに対応すればいい。
- なぜ小中一貫でないといけないのか、そこがはっきり理解できていません。
- 住民からの要望、少子化が原因と、ただなんとなく他より先に変わったことをやりたい（他でやっていることはうちもやりたい）とは違うので、住民にとって納得性のある小中一貫の理由をきちんと示してもらって小中一貫の議論を進めてもらいたいです。
- 教員の確保を考えると無理であると考えます。
- 少数教育を徹底化したほうが良いとの意見がありましたが、それに賛成です（人と人との触れ合い。教員と生徒との触れ合い教育がし易いのでないか）。
- 形態とか制度改革に行きがちですが、人（子ども）を育てるという観点から見た時、そのようなハード（制度）を基軸にした考え方は如何かと思います。
- 反対です（施設の建替えのためにスタートした案件だと思っています）
- 武蔵野市に必要な教育環境ではありません。
- 現状の教育の一層の充実を望みます。

#### 【資料6-4】

- 施設一体型の小中一貫校のみの視察報告がありましたが、分離型で教育効果を上げている自治体についての報告があれば知りたかった。
- 小中一貫教育を行わなくても、今の学校の状態でできることを小中の教員が連携を取ることで達成できないのか、疑問に感じる。
- 小学校のスタイルを変えずに現在のまま連携の強化までに止めて欲しい。
- 個人的には、小中一貫には反対です。むしろ、市内の小学校を統廃合すべきであると考えます。
- 発達段階から考えれば、4・3・2制は実態と合うと考えるが、武蔵野市の地域の区分け（コミュニティ）が学区別に作られていることも考えると急いだ形で統廃合→小中一貫化にはむずかしいかもしれない。ただし、公共設置の整理と課題とも感じる。
- 子ども達の学びになにが一番良いかが優先されるべきと思う。
- ソフトとして9年間カリキュラムは意味があるのではないかな。
- 小中一貫については現段階では賛成ではありません、子どもにとってどうであるべきか、はっきりしたデータもない中なので…。
- 市内にある武蔵中高一貫校との関わり…線引きといいますか、小中一貫を導入することで、どう折り合いをつけるか疑問です。
- 環境変化（小学校から中学校）をなくす事によって子ども達の適応力が育つ機会がなくなってしまう事にならないかと疑問を覚えます。
- 「バスに乗り遅れるな」式の教育委員会の見切り発車と武蔵野の教育のことを心底真剣に考えているとは思えない。論点整理の子ども教育の分析に腹立たしく感じます。
- 学校生活を日々真剣にやっている子ども、教職員以外でのシステムいじりはやめてほしいです。
- 導入しないのがベスト。なぜ効果がないのにワーキンググループ等に税金を使うのでしょうか。

#### ▼意見交換会について

- 小中一貫をする、しないであれ、このような説明会は良いことだと思う。
- 今日の会は良かったと思います。
- 「武蔵野市～論点整理」を最初に報告して欲しかったです。そのほうが何のための視察か、より明確になったのではないかと思います。
- 文教委員の皆さまにおかれましては、市教委が暴走しないようにしっかりと見守っていただきたいのと、またこのような報告会を定期的に開催していただけますよう、お願いします（できれば市議会の他の委員会も…）
- このような報告会を開催されたことはすばらしいと思います。
- 学区制なのか、自由選択性なのかも資料が必要。
- 文教委員のみなさんには、論点整理をして下さったように、子どもの未来を考えて、討議していただくことを望みます。
- まずこうした議会主催の報告会もっとやって欲しい。良い試みだと思います。
- ヒアリング内容がハードに偏っていることや「効果」不明なことやむをえないことだったと説明を聞いて分

【資料6-5】

りました。

- 議員が視察報告をするという取り組みに興味があり参加しました。他の委員会でもやってほしいですね。
- また、このような視察報告会を開いてください。
- 敷地面積、床面積の数字を表にして武蔵野市内の小学校の数字と一覧にして資料配布して欲しかったです（プールの在り方、トラックなども）

▼教育全般、その他

- 平和な武蔵野市で平和教育を望みます。
- 少人数制クラスには反対します。少人数クラス信仰はたいへん困ったことです。
- 豊葉の杜 以外、期間が短い。ここに対して発表されていた議員は成果について口ごもられたが、すでに9年を得ている学校はあるのではないか。
- 視察を積み上げてより多くの事例を知りえるようにして欲しい。

